



# 心磨・本学・心鍛

鶴ヶ島中学校  
 学校だより  
 R1.12.24  
 No. 8  
 校長：青柳 高

心を磨く 本気で学ぶ 心身を鍛える

## 鶴中駅伝部 全国に鶴ヶ島の名を轟かす

12月15日(日) 滋賀県の希望が丘文化公園で行われた第27回全国中学校駅伝大会に本校の女子駅伝チームが出場し、各都道府県から選ばれた49チーム中『9位』という快挙を成し遂げることが出来ました。関東大会では7位であり、前に6チームいたのが今回は、鶴中の前に関東のチームは6位に千葉がいるだけでした。まさに、関東大会の悔しさをバネに、選手一人一人が持てる力を出し切った結果でした。また、この結果は、監督・顧問・コーチを中心とした選手団(鶴中駅伝部)、応援する生徒や保護者、教職員、そして地域の方々が『ワンチーム』となつての応援が選手を後押しして達成できたと思います。



## 常に前を目指す女子駅伝チーム

応援バスは朝6時に会場に到着したので、選手の走るコースを歩いてみました。滋賀県希望が丘文化公園スポーツゾーン芝生ランドのコースは、最後のトラック以外は柔らかな芝生で所々が砂地となっており選手としては走りづらいコースでした。最後トラックに入る前がのぼりとなっており選手泣かせのコースだったと思います。



午前11時に、49チーム(47都道府県の各1位と開催地代表1チーム、開催市町の選抜チーム)が横一線に並んでのスタート(写真の左から14番目が鶴中)です。流石に各地区から選ばれただけあって、どの選手も粘り強い走りでした。トラックに入って残り約300m地点の所で、写真を撮りながら応援をしていました。鶴中の5人の選手がトラックに入るとき前後数メートル以内に他のチームがいる混戦状態でしたので応援にも熱が入りました。



最終5区の選手がトラックに入ってきた時は応援する声も最高潮に達していました。9位でゴールした時は、「良かった」と褒めてあげようと思いました。

レース終了後、急いで鶴中のペーストに戻ると、そこで見たのは、走り終えた女子駅伝チームの涙して悔しがっている姿でした。これまで何度も自分の限界に挑戦し、何度も乗り越えてきた山をまた乗り越えようとしていると感じました。3年生は、次にそびえ立つ大きな山に向かい、1・2年生は、来年こそはと今つけた大きな山に向かいスタートを切ったと感じました。



## 女子駅伝チームが繋げた地域の輪

11月9日埼玉県駅伝競争大会で女子駅伝チームが優勝し、全国・関東大会を決めた直後、鶴ヶ島市教育委員会や市役所の職員がいち早く動いてくれました。また、市役所の玄関に掲げてくれたポスターと同じものを学校や地域に配布する分も作ってくれたり、応援バスで資金不足を補うために、ある社長は、市内や近隣の企業に呼びかけられました。よくよく動いて頂いた方に話を聞くと、鶴ヶ島中学校の卒業生であり、鶴中を愛してやまない方々でした。中には当時の駅伝部で活躍していた方もおりました。ちょうど同窓会が開かれた年代の方は、その会の中で協力金を集めてくれました。また、電車を乗り継いで直接会場に応援に来てくれた卒業生もいたのには驚きました。また、応援してくれた方は卒業生だけではなく、横断幕を作ってくれた企業、記念Tシャツやタオルを格安で作ってくれた企業、旅行会社やバス会社までが協力してくれました。その輪が広がり、市内の企業や近隣の企業まで協力して頂いたのには驚きました。

先日、市長への報告会が行われました。選手一人一人の言葉の中には、次への目標の決意と、協力して頂いた方々への感謝の言葉がありました。

鶴ヶ島中学校の目指す生徒像に5つの目標が示されています。

- ①何事にも感謝の心をもつ 鶴中生
- ②母校を誇りに思い 仲間を大切にす 鶴中生
- ③授業に燃える 鶴中生
- ④行事や諸活動に燃える 鶴中生
- ⑤困難なことにも挑戦する 鶴中生

女子駅伝チームの選手は、この中の①②⑤を示してくれました。

今回の大会を振り返ると、「母校を誇りに思い 仲間を大切にす 鶴中生」に関しては、鶴中の卒業生が代々繋いで来ていると感じました。今回、女子駅伝チームがそのことを呼び起こし、市内全域に繋げてくれたと思いました。また、選手の感謝の言葉にもありましたが、選手の家族の長期間にわたる支えは、計り知れないものがありました。駅伝部の皆さんおよび選手が繋いでくれたすべての方々に感謝申し上げます。